

マンパワー

のあるくもとへ。

パワフルな街を支えるのは、
そこに住む人々のエネルギー。
心身共に健全な人を育てる文化・教育の場。
熊本市は、
21世紀を支える人材づくりをすすめています。

21世紀を支える人材の育成

学校教育

Human City くもと

KUMAMOTO

学校教育は、人間性豊かな児童生徒の育成と創造的な教育経営の推進を目標に、本年度は、次のような重点施策を推進しています。

心豊かな人づくり推進では、基礎学力の充実、生徒指導の徹底、国際理解の推進、郷土、勤労、愛鳥、環境保護の教育の推進を図っており、体力づくり推進では、素足の励行、部活動の奨励を行っています。このほか、パソコン利用の教育では、実験校の委嘱、中学校への設置、指導者研修会の開催など、情報化社会への対応する学校教育を進めています。

また、同和教育は、その責務の重大さを自覚し、すべての児童生徒に人権尊重の精神を認識させ、部落差別をはじめ、あらゆる差別をなくしていく意欲と実践力を育成するため、全教育活動を通して推進しています。

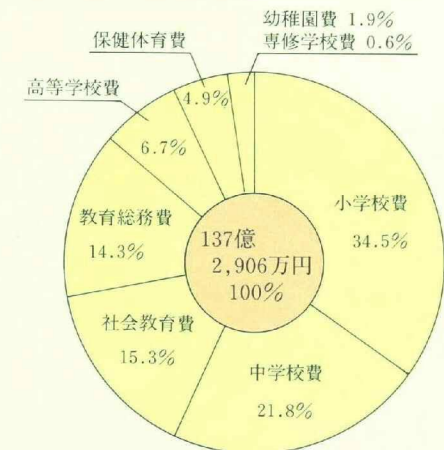
現在、市立の学校は幼稚園から高校まで102校(園)あり、在学(園)者総数は75,000人以上となっています。市では就学の助成として、育英奨学金制度を設けており、市内の高校生120人が給付を受けています。また、幼児教育振興に幼稚園就園奨励事業としての補助金の増額、要保護及び準保護児童生徒就学援助、特殊教育就学奨励費補助、私学振興のため幼稚園から大学までの71校(園)に対して私学助成などを行っています。

小学6年生の発育状況

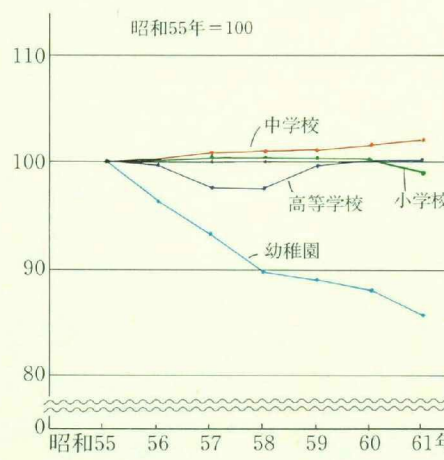
区 分	性 別	身 長 (cm)		体 重 (kg)	
		熊本市	全 国	熊本市	全 国
昭和57年度	男	142.7	142.8	35.7	36.1
	女	145.4	145.0	37.4	37.4
58年度	男	142.7	143.1	35.7	36.5
	女	145.4	145.2	37.4	37.7
59年度	男	142.9	142.8	35.8	36.2
	女	145.4	145.0	37.4	37.6
60年度	男	143.1	143.2	35.9	36.5
	女	145.5	145.5	37.4	37.8
61年度	男	142.8	143.6	35.6	37.0
	女	145.2	145.6	37.0	38.2

また、学校教育並びに社会教育に関する教育課題の解決に必要な調査、研究や教育関係者の研修、各種の教育相談を行う熊本市教育センターが、千葉城町に完成し、昭和62年9月にオープンしました。地下1階、地上4階建の同センターには、教育相談室、遊戯治療検査室、コンピューター研修室、スタジオ完備の教材作成室、大研修室などがあります。

昭和62年度教育費(歳出当初予算)



在学者数の推移(幼・小・中・高)



教育センター

市内学校数 (昭和62年5月1日)

	学 校 数					幼児・児童・生徒・学生数
	総数	国立	県立	市立	私立	
幼稚園	61	1	—	7	53	9,937
小学校	66	1	—	65	—	47,356
中学校	34	1	—	27	6	27,341
高等学校	27	—	10	2	15	32,121
短期大学	4	—	—	—	4	3,341
大 学	6	1	1	—	4	20,229
盲・ろう学校	2	—	2	—	—	215
養護学校	2	—	2	—	—	212
専修学校	27	1	—	1	25	5,348
各種学校	21	—	2	—	19	2,801
合 計	250	5	17	102	126	148,901

学校施設

Human City くまもと
KUMAMOTO

知力、体力、徳力の調和した人間性豊かな児童、生徒の育成には、ゆとりある充実した学校施設が必要です。

市では教育施設の整備のため、毎年計画的な校舎の増築、老朽校舎の改築を進めており、本年度も小学校は池上小外3校、中学校は西山中外1校で校舎の増改築を進めており、屋内運動場については池上小外1校で増改築を実施し、教育施設の

拡充を図っています。

また、過大規模校解消のため分離新設校の用地取得、校舎の建築など鋭意取り組んできています。

このほか、従来からの木造校舎の改築とともに、新たに鉄筋校舎の改築を行い、ワークスペースを配慮した壺川小学校の新校舎が出来あがりました。

今日の多様化する教育の変革に対応して、学習指導方法が弾力的に進められるように、60年度から多目的教室を建設していますが、62年に開校し

ました清水中学校は、徳育教育に役立つように和室を設けたほか、外観においても、正門を入ると校舎の入口までインターロッキングを敷き詰めてあたたかみを出し、玄関にはギリシャ建築を思わせる3本の円柱がそそり立つなど、従来の機能的だけの校舎から脱皮したユニークな意匠を組み込んだ新しい校舎建築の第1歩を印しています。また大規模化した京陵中学校の分離新設校として、上熊本3丁目に建設中の井芹中学校は、63年4月に開校することになっています。



清水中学校

社会教育

Human City くまもと
KUMAMOTO

市立公民館

市立公民館は、中央公民館と各市民センター（東部、託麻、龍田、清水、西部、南部、幸田、秋津）内8ヶ所、合わせて9館があり、米春には10館日が大江に完成する予定です。

公民館は1年を通して学習できる定期講座のほか、教育講座、政治、経済、文学などの短期講座があり、また、趣味講座や自主サークル、展示会などボランティア活動も盛んに行われています。講座の受講者は1年間に2万5千人を越えています。

市立図書館

図書館は大江6丁目（文教地区）に本館があり、公民館内に8分館があります。蔵書総数31万余冊、年間30万人の市民が利用しています。

本館は昭和57年、現在地に新築されましたが、1階に一般貸出し、閲覧、児童、お話コーナー、参考資料室、身体障害者福祉室があり、2階には集会室、ホール、視聴覚ライブラリーなど図書館機能を完備しています。静かな環境にあり、貸出

し、研修に多くの市民が利用しています。

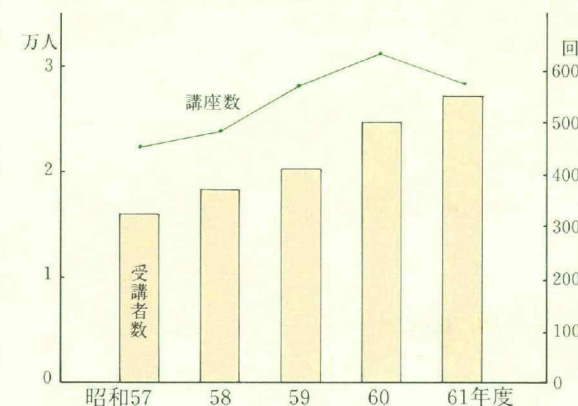
博物館

博物館は古京町（熊本城内）にあり、自然人文、理工科学関係資料総数1万1千余を展示し、西日本一の規模をもつプラネタリウムも併設しています。

また、「星をみる会」、特別展など各種教室、催し物を開催し、社会教育のみならず学校教育の場を提供するなど、総合博物館としての機能を備えています。年間訪ずれる人は11万人を越えています。

このほか、市立体育館と併設している青年会館は昭和62年7月に完成し、青年活動の拠点として青年の自発的自己研さんに利用されていますが、青年教室の開催や青年リーダーの養成などが行われています。また、児童育成クラブの開設（22ヶ所）、青少年補導センターの充実、「熊本市少年海洋体験船」などの事業を実施し、青少年の健全育成や高校生の国際交流の推進も図っています。

公民館の学習活動と受講者数



南部市民センター

地域文化

Human City くまもと
KUMAMOTO

本市には147の指定文化財があり、永い歴史に培われた文化遺産として、大切に保存されています。なかでも、熊本城、水前寺成趣園、明治の文豪夏目漱石・小泉八雲の文学遺跡など12の公開文化財は、訪ずれる人々に深い感銘を与えています。また、横井小楠、徳富蘇峰、蘆花など郷土ゆかりの先哲の顕彰、埋蔵文化財の保護などにも努めています。

一方、市民会館、博物館、美術館、県立劇場、図書館、青年会館など拡充された文化施設では、全国規模の学術、会議、芸術祭などが頻繁に催され

ており、昭和62年度には第2回国民文化祭も各施設で開催されました。一流の芸術、文化に接する機会が多くなり、これが市民の各種の文化活動、文化交流の原動力になっています。

また、「熊本市アメニティタウン計画」は、緑と水と文化が調和した情緒豊かな森の都を目指していますが、先人が残した優れた歴史と伝統を継承し、文化財の尊重と愛護精神を育成しつつ、生活文化から地域に根ざした個性ある市民文化へ進める、快適な都市環境づくりと文化的なまちづくりの推進に努めています。

市内指定文化財

	国指定	県指定	市指定
建築物	3	11	17
美術工芸品	8	49	11
無形文化財	—	3	—
無形民俗文化財	—	1	3
史跡	3	5	22
史跡名勝	1	2	—
天然記念物	5	—	3
計	20	71	56



大江市民センター完成予想図

健康文化

Human City くまもと
KUMAMOTO

21世紀へ向けての「明るく豊かな活力ある近代都市づくり」には、心身ともに健全な人材の育成が必要です。スポーツは人間性豊かな、健康で文化的な生活を営むうえで、重要な役割を果たします。市では昭和56年にスポーツ振興10ヵ年計画を策定し、生涯を通した総合的なスポーツ・文化活動の推進、市民総スポーツ活動の推進、体育施設の整備拡充と効果的利用の促進、社会体育組織の充実と指導者の養成などについて、施策を進めています。

熊本市総合体育館・青年会館

この会館はスポーツ施設と青年活動の施設を併設した、幅広い活動の行える施設として、昭和61年7月に開館しました。大、中、小の体育室、室内温水プール、武道場などがあり、国際競技大会をはじめ各種大会、市民の健康づくりに、スポーツの中核施設として利用されています。

総合体育館・青年会館

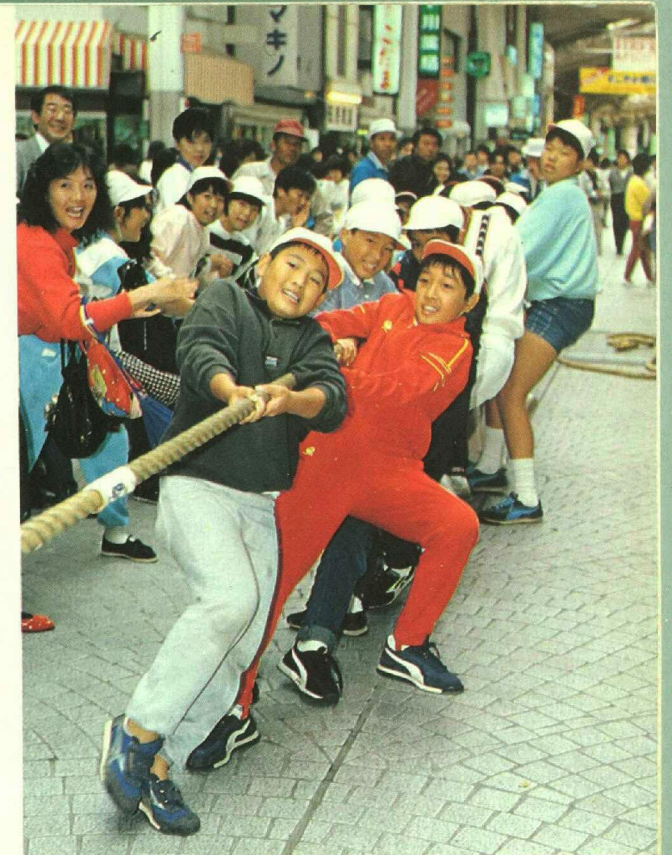


体育施設

市内には、昭和13年に開設された水前寺野球場をはじめとして、陸上競技場、野球場、バレーコート、テニスコート、武道場などの運動施設が配置され、各種スポーツ大会、スポーツクラブや職場グループ等の練習に、社会体育の場として広く市民に利用されています。

熊本市立金峰山少年自然の家

金峰山県立公園及びくまもと自然休養林の中にあるこの施設は、小・中学校の児童・生徒などに自然の中で集団的な宿泊、遊戯、学習を体験させ、心身ともにすこやかな少年を育てるため、昭和50年に開設されましたが、市の中心からも近く、春から秋まで利用者が一杯です。



すこやか綱引きフェスティバル

市制100周年 に向けて

基本理念
テーマ 21世紀への飛躍

くまもと100、ふれあい・魅力・活力

次なる100年に向けて
ヒューマンシティの創造

市制100周年の意義

本市は、昭和64年4月に市制施行100周年、100歳の誕生日を迎えます。

明治22年の市制施行当時、わずか4万2千余人にすぎなかった人口が、今や56万人、そして昼間人口は60万人を越える近代都市へと大きく発展しています。

この本市の発展は、ひとえに明治・大正・昭和の三代にわたる激動期の中で、多くの先人が衆知を集め、汗を流し、幾多の困難を克服してきたたまものにはかなりません。

市では、この記念すべき市制100周年を迎えるに当たり、これを真に意義あるものとするため、この機に、改めて熊本100年の歴史を振り返り、多くの先人の労苦に感謝するとともに、郷土熊本の21世紀へ向けた新たな発展を目指す市制100周年記念事業の準備を進めております。

次なる100年に向けた記念事業の展開

多くの市民提言をもとに審議・集約された、熊本100年懇談会からの報告書「市制100周年への提言」を受けて、市では、この提言を基本とした熊本市制100周年記念事業の基本構想を策定しました。

この基本構想は、「21世紀への飛躍 くまもと100 ふれあい・魅力・活力」を基本理念テーマに掲げ、市民の共感と参加を基調に、いま熊本市が取り組んでいる、次なる100年に向けた人間味豊かな街づくり「ヒューマンシティーくまもとづくり」に向けて、各種の記念行事や記念事業を実施するものです。

本年からの100周年キャンペーンを皮切りに、来年の市制100年に向けて、市民総参加型の記念事業を全市的に展開してまいります。

S63 100周年キャンペーン

100周年記念事業の意義や内容を広く周知し記念行事への参加意識と期待感・話題性を拡大するため、昭和63年度から100周年キャンペーンを実施します。

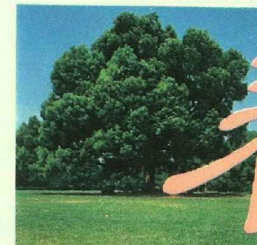
●記念制作

- シンボルマークなどの選定
- 交響詩の制作
- 市民の歌の制作
- 記念映像・出版の制作
- 新熊本市史の編纂

●プレイベント

- 火の国まつり
- 江津湖まつり
- 記念制作の発表
- 歴史フォーラム

S64 記念行事



みどりの祭典

熊本の魅力の再発見

100周年の開幕祝典を皮切りに、参加者一人ひとりが、自然や歴史、あるいは食文化などを体験しながら、熊本の魅力を自ら再発見し、これを未来へ継承させるため、みどりの祭典を展開します。

- オープニングフェスティバル
- 水源涵養林記念植樹祭
- フラワーフェスティバル
- こどもイベント
- くまもとグルメフェア

記念行事 総合タイトル

熊本百彩



お城ページェント

熊本の魅力の未来発進

伝統文化の継承と、新しい熊本文化の創造を目指し、これらを未来に向けて発進するため、熊本のシンボルである熊本城を中心に、お城ページェントを展開します。

- 記念式典
- 城下町サミット
- 国際交流の夕べ
- 熊本城フェスティバル
- 熊本動物園開園60周年記念行事
- 市民ふれあいオリンピック



火と光のカーニバル

熊本の魅力の創造

熊本の夏の魅力を創造する火の国まつりをさらにスケールアップし、併せて、市民の憩いの場である江津湖周辺を会場とした江津湖まつりなど、熊本の夏の夜をくつろぐ火と光のカーニバルを展開します。

- 火の国まつり
- 江津湖まつり
- こどもイベント

世界の珍獣

『金絲猴』がおめみえ

桂林市友好都市締結10周年記念
熊本動物園開園60周年記念

熊本動物園は市制100周年の昭和64年に開園60周年を迎えます。

また、この年は中国桂林市との友好都市締結10周年に当たるため、これを記念し、中国から世界の三大珍獣「金絲猴」が貸し出されます。

孫悟空のモデルといわれる金絲猴が、九州では初めて熊本動物園にお目見えします。



記念事業・記念制度

先人の知恵と行動力によって築かれた多くの資産をさらに発展させ、未来市民に継承すべき真に九州の雄都としてふさわしい、熊本の個性と新たな活力を創造するため、特に記念性の高い七つの記念事業計画の推進と、一つの新しい制度を創設します。

●記念事業●

- 水源涵養林造成事業の推進
- 熊本のシンボルゾーン構想の樹立と推進
- 記念公園建設構想の推進
- 流通情報会館建設計画の推進
- 総合婦人会館建設計画の推進
- カルチャーセンター建設計画の推進
- 海洋水族館建設計画の推進

●記念制度●

- 人づくりに関する新制度の創設

くまもとに住むことを

誇りにしたい街づくり

市議会

市議会は、市民から選ばれた議員52名で構成されています。会派としては、自民クラブ（29名）、公明党（8名）、革新クラブ（8名）、日本共産党（3名）、民社党（2名）、無所属（1名）、熊本クラブ（1名）の7会派が結成されています。

会議は、年4回開かれる定例会と必要がある場合に開かれる臨時会があります。内部の審査機関としては、常任委員会と特別委員会があります。

●歴代市議会議長

代	氏名	就任年月日	退任年月日	代	氏名	就任年月日	退任年月日	代	氏名	就任年月日	退任年月日
1	有馬源内	明治22. 4. 26	明治24. 1. 21	13	佐藤真佐男	昭和22. 6. 9	昭和23. 4. 7	25	落水清弘	昭和46. 5. 20	昭和48. 6. 6
2	興津景章	" 24. 1. 22	" 28. 5. 13	14	大塚勇次郎	" 23. 6. 5	" 26. 4. 29	26	古川国雄	" 48. 6. 6	" 50. 4. 30
3	河原惟親	" 28. 5. 14	" 31. 5. 22	15	大塚勇次郎	" 26. 5. 15	" 30. 4. 30	27	紫垣正良	" 50. 5. 16	" 52. 6. 4
4	吉永為己	" 31. 5. 23	" 36. 2. 5	16	兼坂安次	" 30. 5. 21	" 34. 4. 8	28	上田堅太	" 52. 6. 4	" 54. 4. 30
5	山田珠一	" 36. 2. 6	" 37. 4. 30	17	打出信行	" 34. 6. 12	" 36. 3. 24	29	島永慶孝	" 54. 5. 14	" 56. 12. 8
6	吉永為己	" 37. 5. 27	大正 2. 4. 30	18	寸坂幸夫	" 36. 3. 24	" 38. 4. 30	30	藤山増美	" 56. 12. 8	" 58. 4. 30
7	林千八	大正 2. 5. 10	" 6. 4. 30	19	阿部次郎	" 38. 5. 18	" 40. 3. 18	31	宮原光男	" 58. 5. 18	" 60. 9. 6
8	山隈康	" 6. 5. 15	" 10. 9. 30	20	井上常八	" 40. 3. 18	" 40. 12. 7	32	大石文夫	" 60. 9. 6	" 61. 12. 15
9	迫源次郎	" 10. 10. 14	" 14. 9. 30	21	石井辰雄	" 41. 7. 4	" 42. 4. 30	33	内田幸吉	" 61. 12. 15	" 62. 4. 3
10	山隈康	" 14. 10. 12	昭和 9. 5. 7	22	阿部次郎	" 42. 5. 20	" 43. 7. 3	34	西村建治	" 62. 5. 22	在任中
11	平野龍起	昭和 9. 5. 8	" 17. 6. 14	23	坂梨日露	" 43. 7. 13	" 45. 12. 4				
12	佐藤真佐男	" 17. 7. 23	" 22. 4. 29	24	黒田弥一郎	" 45. 12. 4	" 46. 4. 30				

●歴代市議会副議長

代	氏名	就任年月日	退任年月日	代	氏名	就任年月日	退任年月日	代	氏名	就任年月日	退任年月日
1	下田一直	明治22. 4. 26	明治24. 1. 21	15	河田巖	大正14. 10. 12	昭和 4. 9. 30	29	佐藤寿子	昭和42. 5. 20	昭和44. 3. 24
2	下田耕造	" 24. 1. 22	" 31. 5. 22	16	平野龍起	昭和 4. 10. 12	" 9. 5. 7	30	古川国雄	" 44. 3. 25	" 44. 6. 28
3	片山甚十郎	" 31. 5. 23	" 32. 2. 7	17	橋本寿七	" 9. 5. 8	" 17. 5. 20	31	岩尾恵	" 44. 9. 13	" 46. 4. 30
4	林定男	" 32. 2. 8	" 36. 2. 5	18	西郷一恵	" 17. 6. 11	" 22. 4. 29	32	阪本富	" 46. 5. 20	" 48. 6. 6
5	出田彦太郎	" 36. 2. 6	" 36. 2. 11	19	大塚勇次郎	" 22. 6. 9	" 23. 6. 5	33	荒木昇	" 48. 6. 6	" 50. 4. 30
6	園部交雅	" 36. 2. 12	" 36. 5. 11	20	加川恒次	" 23. 6. 5	" 26. 4. 29	34	藤山増美	" 50. 5. 16	" 52. 6. 4
7	板垣正軌	" 36. 5. 12	" 37. 2. 12	21	北上利民	" 26. 5. 15	" 28. 9. 5	35	矢野昭三	" 52. 6. 4	" 54. 4. 30
8	有働格四郎	" 37. 2. 13	" 40. 11. 4	22	上野勉	" 28. 9. 25	" 30. 4. 30	36	上妻重蔵	" 54. 5. 14	" 56. 12. 8
9	板垣正軌	" 40. 11. 14	" 42. 1. 27	23	森光吉	" 30. 5. 21	" 32. 12. 28	37	田尻武男	" 56. 12. 8	" 58. 4. 30
10	河田巖	" 42. 1. 28	大正 2. 4. 30	24	吉村貞次	" 34. 6. 12	" 35. 3. 21	38	白石正	" 58. 5. 18	" 60. 9. 6
11	井場熊喜斎	大正 2. 5. 10	" 6. 4. 30	25	坂梨日露	" 35. 3. 21	" 37. 7. 9	39	北口政義	" 60. 9. 6	" 61. 12. 15
12	峽謙	" 6. 5. 15	" 7. 3. 10	26	吉村貞次	" 37. 7. 9	" 38. 4. 30	40	吉村潔	" 61. 12. 15	" 62. 4. 30
13	藤野乱	" 7. 3. 11	" 10. 9. 30	27	石井辰雄	" 38. 5. 18	" 41. 7. 4	41	竹本勇	" 62. 5. 22	在任中
14	水上誠規	" 10. 10. 14	" 14. 9. 30	28	吉村貞次	" 41. 7. 4	" 42. 4. 30				



議場



西村 建治 市長

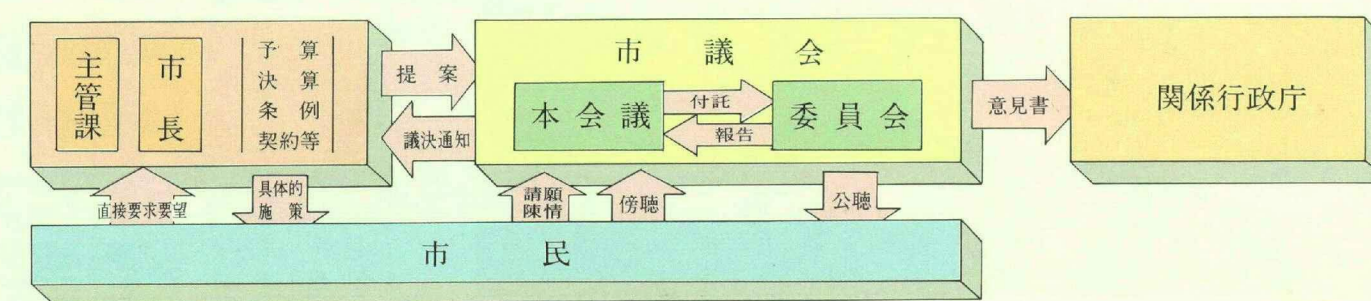


竹本 勇 副議長

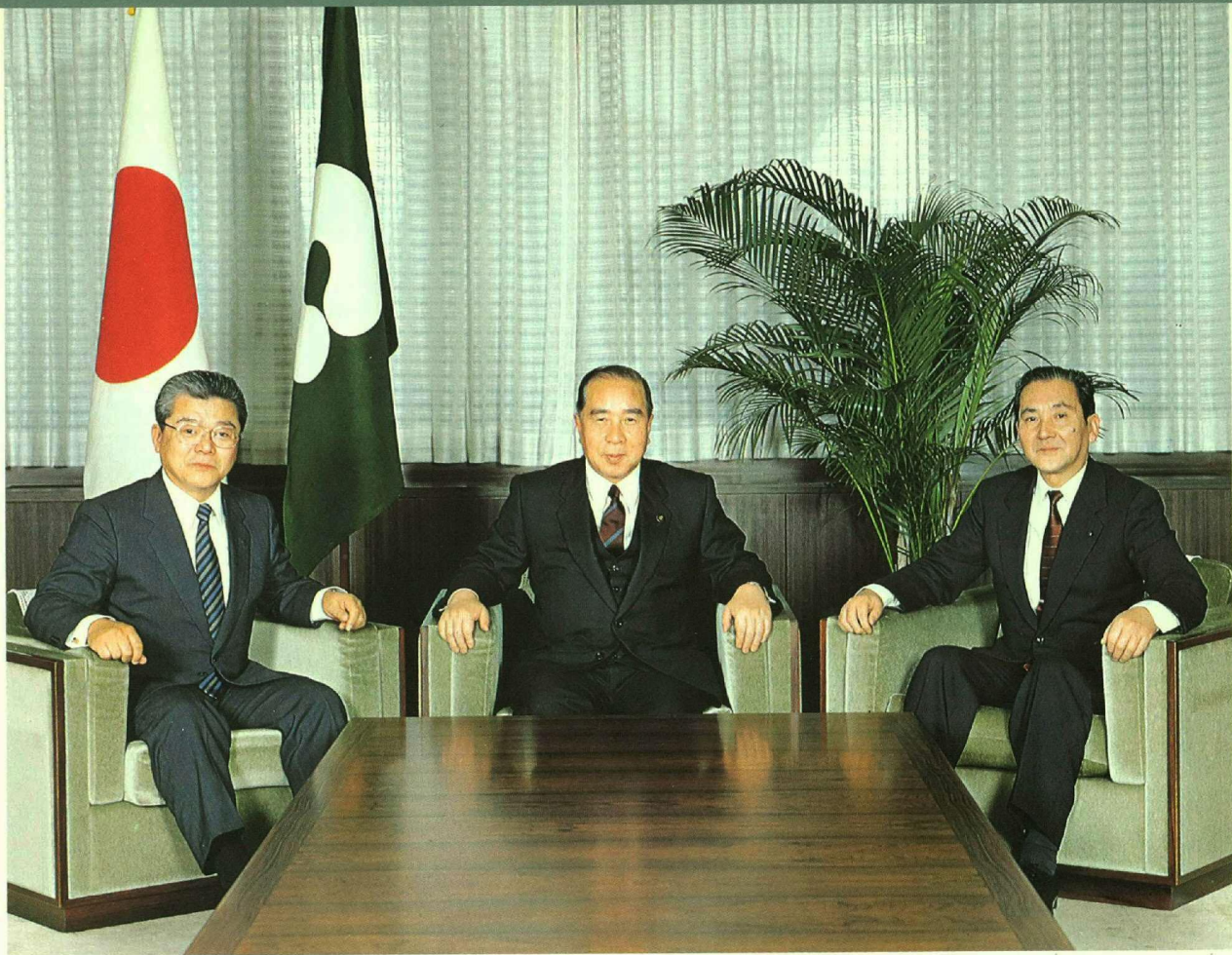
●常任・特別委員会（昭和63年1月1日現在）

名 称	定数	所 管 事 項
総務委員会	9	企画広報部、総務局、会計室、消防局、選挙管理委員会、監査委員、公平委員会の所管に属する事項、他の常任委員会の所管に属しない事項
教育民生委員会	9	市民局、教育委員会の所管に属する事項
保健衛生委員会	8	保健衛生局の所管に属する事項
経済委員会	9	産業局、中小企業局、農業委員会の所管に属する事項
建設委員会	9	都市局、建設局の所管に属する事項
公営企業委員会	8	水道局、交通局の所管に属する事項
議会運営委員会	12	議会運営に関する事項についての審査
総合都市調査特別委員会	13	都市圏、都市整備及び国際化に関する調査
環境整備特別委員会	13	自然環境、都市景観及び観光政策に関する調査

●市議会のしくみ



行政



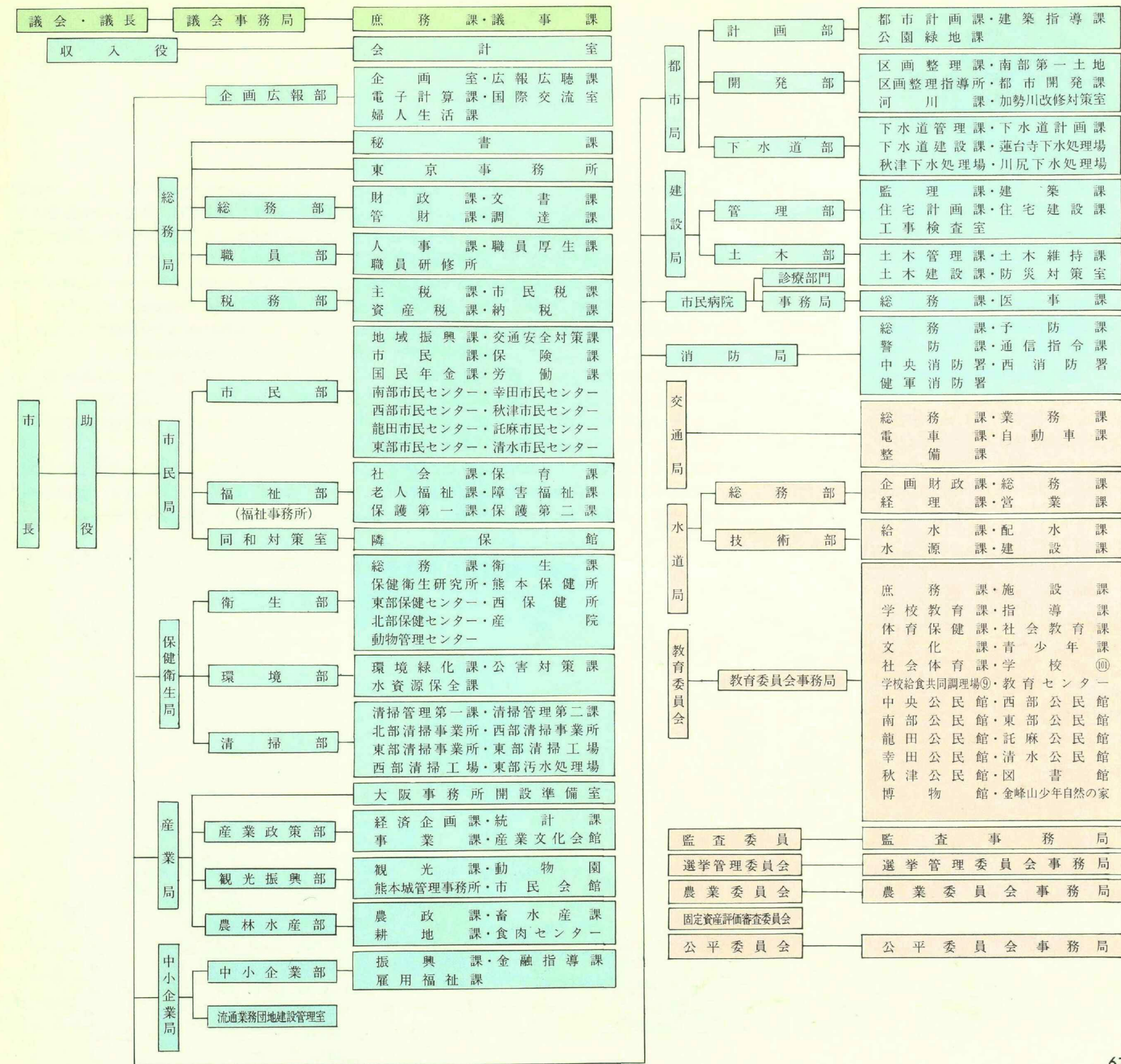
左から柏尾誠之助役、田尻靖幹市長、御厨一熊収入役

●歴代市長

代	氏名	就任年月日	退任年月日
第1代	杉村大八	明治22. 5. 6	明治26. 7. 9
2	松崎為己	" 26. 9. 15	" 30. 8. 2
3	幸島格一	" 30. 9. 13	大正 2. 1. 20
4	山田珠一	大正 2. 4. 2	" 3. 10. 10
5	依田昌兮	" 4. 1. 14	" 6. 9. 3
6	佐柳藤太	" 6. 11. 20	" 10. 11. 19
7	高橋守雄	" 11. 1. 19	" 14. 7. 13
8	幸島知己	" 14. 9. 14	昭和 4. 7. 4
9	山田珠一	昭和 5. 2. 5	" 9. 4. 17
10	山隈康	" 9. 5. 14	" 17. 5. 13
11	平野龍起	" 17. 6. 25	" 20. 8. 10
12	石坂繁	" 20. 10. 4	" 21. 3. 11
13・14	福田虎亀	" 21. 6. 14	" 23. 2. 9
15	佐藤真佐男	" 23. 4. 7	" 27. 3. 7
16	林田正治	" 27. 3. 21	" 31. 2. 23
17・18	坂口主税	" 31. 3. 16	" 38. 1. 4
19・20	石坂繁	" 38. 2. 15	" 45. 11. 26
21~24	星子敏雄	" 45. 12. 20	" 61. 12. 6
現市長	田尻靖幹	" 61. 12. 7	在任中

熊本市行政機構図

(昭和63年1月11日現在)



財政

本市をとりまく財政環境は、円高の進行による税収の伸び悩みを始め、昨年に引き続く国庫補助負担金の削減など大変厳しいものがあります。しかしながら、昭和62年度予算は市制100周年を目前に控え、さらには二十一世紀に向かって「ロマンに満ちた新しいふるさとづくり」を目指し、諸施策の展開に力を注ぐため、施策の的確な選択・中長期的展望に立った効率的財政運営に配慮し、重点的かつ積極的な予算編成を行っています。

その主な内容をみると、まず第一に、「地域経済の活性化」です。これは組織的対応として中小企業局が新設され、人づくり・技術の高度化・情報化への対応についてのビジョン策定事業など、中小企業・雇用・観光・都市農業それぞれの分野から広く意見を求め、積極的に取り組むものです。

第二に「変革の時代への対応」です。これはまず、老人福祉課の新設に伴い高齢化時代に対応した、シルバー人材センター設立を始めとする福祉事業の一層の推進を図ります。また国際交流の進展に呼応し、新たに国際交流室が設置され、桂林市・ハイデルベルク市に続く第三の交流都市の調査・選定事業を進めます。さらに、婦人生活課も新設され、婦人の地位向上など婦人問題についての事業を展開します。

第三に「魅力ある都市環境の形成」です。これは、まず、本市の都市特性でもある緑と水の保全と創造事業の一層の推進に力を注ぎます。また、都市景観基本計画の策定や、潤いに満ちた道路環境の整備など、都市景観形成に意欲的に取り組むと共に、住宅・道路整備など市民の資産とも言う

べき社会資本の形成を図ります。さらに、熊本駅前再開発の促進・総合都市交通施設整備計画など活力に満ちた秩序ある市街地の整備を積極的に推進することとしています。

第四に、「二十一世紀を支える人材の育成」です。これは、体力づくり勤労体験学習・愛鳥教育・いじめ対策など「豊かな人づくり事業」を積極的に推進し青少年の健全育成に力を注ぎます。また、大江市民センターや教育集会所の建設、田迎・川尻コミュニティスポーツ施設の整備など、スポーツ活動の活性化を通じる健康文化の振興に取り組んでいきます。

最後に、「市制百周年への対応」です。このことについては、早急に記念行事・事業の構想を固めるための事務局を再編強化するとともに、本格的

に着手する市史編さんや、海洋水族館調査経費などを計上、市民の共感と参加による地域に密着した百周年の実現に力を注ぎます。

その結果、本市の当初予算は、
一般会計 104,600,000千円
(3,170,000千円・3.1%増)
特別会計 94,040,542千円
(-3,302,046千円・3.4%減)
企業会計 27,176,822千円
(203,930千円・0.8%増)
総 計 225,817,364千円
(71,884千円・0.03%増)

となりました。
一般会計において、歳入面では、自主財源と依存財源の構成比でみると、自主財源が61.1% (前

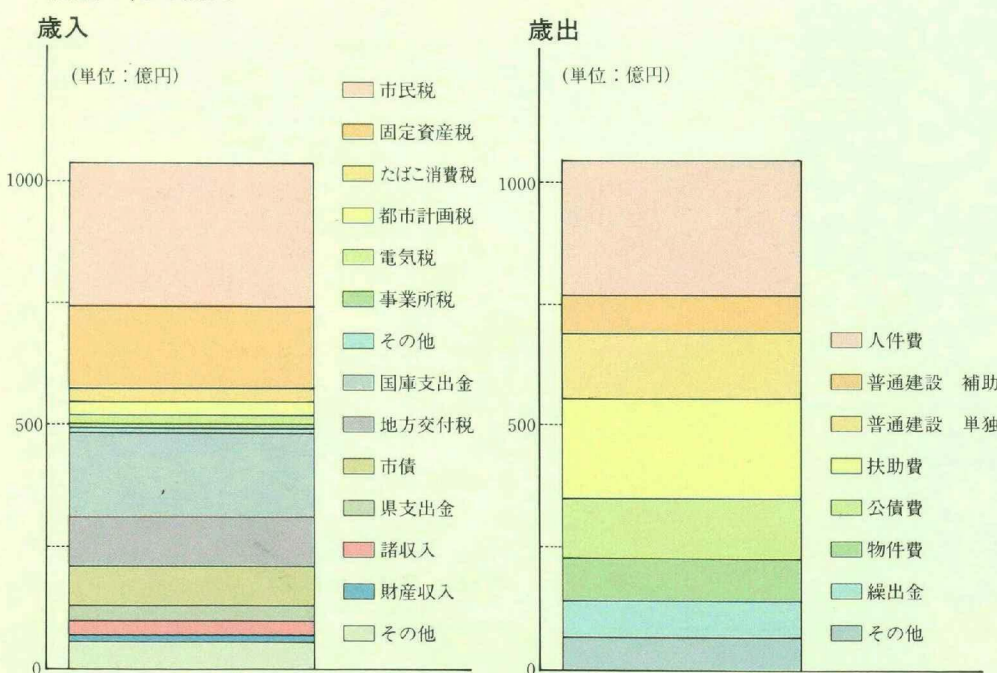
年度61.7%) となっており、うち市税が歳入総額の53.2% (前年度51.4%) を占めています。

また歳出面では、民生費(23.8%)、土木費(20.6%)、教育費(12.1%)と市民生活に密着した科目で予算の半分以上を占めています。また、投資的経費について、市民生活の安定向上に密接に関連する事業については、財源の許す限り積極的に予算を重点配分しています。

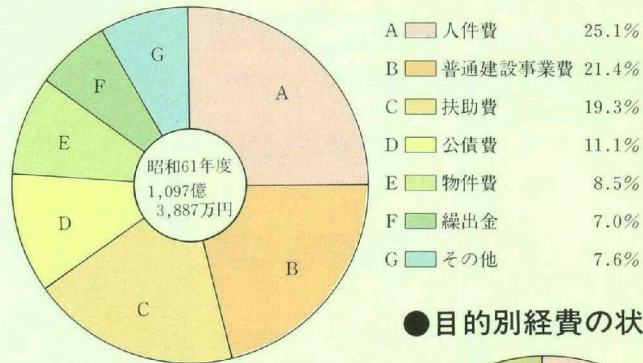
このように、厳しい財政状況下にあいながらも市民生活の充実と、市政の健全な発展を一層期すべく編成した本年度予算の執行は、総合的・長期的視点に立って、経費節減、事務事業の見直しなど、より一層の創意工夫をこらして、効率的な予算運用を図り、これまで同様健全財政の堅持に務めることとしています。

●昭和62年度当初予算(一般会計)構成比

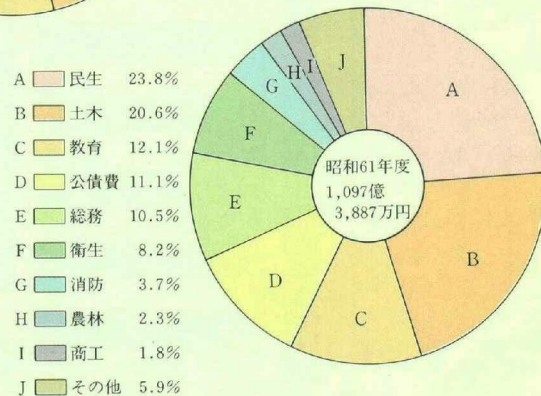
総額 1,046億円



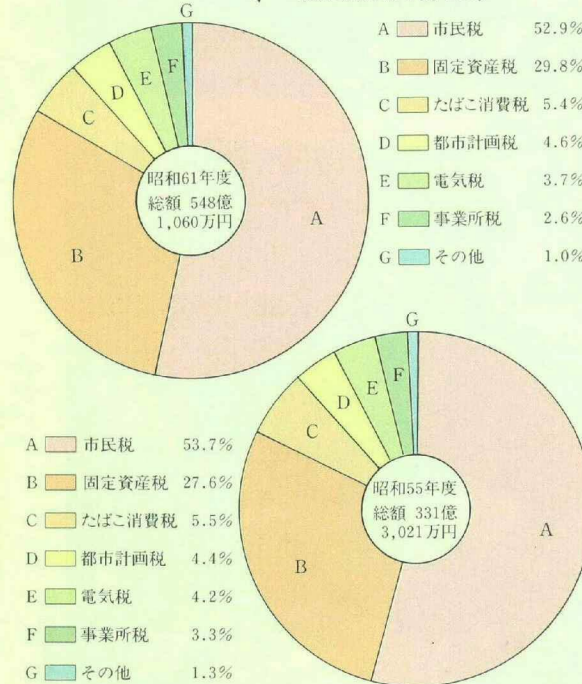
●性質別経費の状況



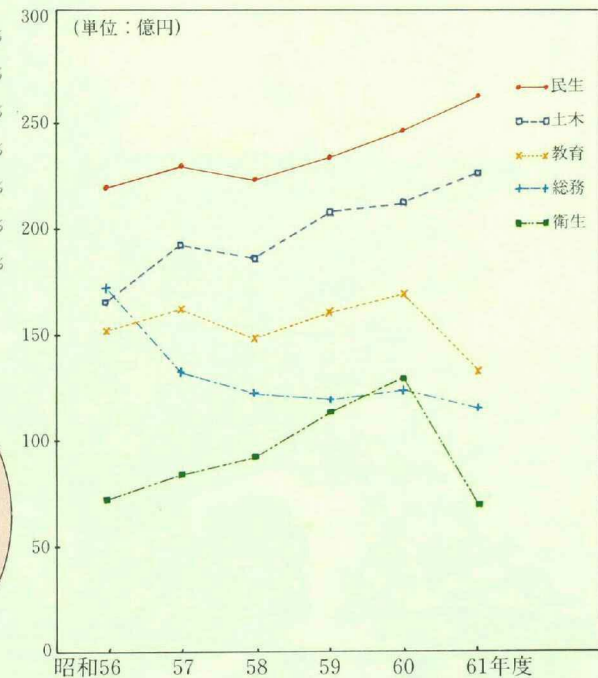
●目的別経費の状況



●市税収入の税目別内訳 (一般会計決算額)



●主要費目行政費の推移(一般会計決算額)



●昭和62年度当初予算の主要事業

「地域経済の活性化」	
地域経済活性化構想策定経費	10,000
中小企業振興ビジョン策定経費	3,000
中心商店街施設整備調査経費	1,500
中小企業金融制度融資枠	9,739,000
中小企業経営相談関係経費	1,000
円高不況緊急対策経費	1,500
雇用対策懇話会 関係経費	1,000
流通業務団地造成事業	1,632,000
ニューメディア・コミュニティ構想経費	32,500
「観光振興懇話会」関係経費	2,000
駅前観光案内所移転改築経費	4,000
観光標識等整備経費	17,800
レストハウス棟(動物園)建設事業	50,000
「都市農業懇話会」関係経費	2,000
農業用排水路整備事業	630,000
漁場環境調査経費	1,000
「変革の時代への対応」	
シルバー人材センター設立経費	5,000
在宅老人デイ・サービス	15,128
在宅老人給食サービス	596
生きがい作業所設備整備経費	4,000
老人福祉センター建設事業	207,000
国際交流関係経費	18,000
婦人対策経費	1,000
「魅力ある都市環境の形成」	
公営住宅建設経費	3,126,669
市道新設・改良・舗装打換経費	2,210,000
都市計画街路事業	1,650,000
公園整備事業	897,000
公共下水道築造事業	7,800,000
都市小河川整備事業	855,000
排水路整備事業	890,000
熊本駅前再開発経費	78,800
南部第一土地区画整理事業の促進	95,154
中心市街地再開発調査研究費	3,000
総合都市交通施設整備計画策定事業	13,000
都市景観整備推進経費	12,000
道路環境整備事業	200,000
「鳥崎歴史公園」基本構想・基本設計経費	8,000
地下水保全対策経費	34,500
水源涵養林遠地調査	500
自然環境保全対策事業	11,224
酸性雨対策事業	3,500
きれいな街づくりの推進	23,460
緑化推進事業	150,000
「二十一世紀を支える人材の育成」	
教育センター建設事業	332,781
市民センター(大江)建設経費	20,825
教育集会所建設事業	103,740
コミュニティ・スポーツ施設整備事業	111,800
小・中学校大規模改修	230,000
豊かな人づくり	40,380
健康文化施設調査経費	1,000
戸島埋立地スポーツ広場基本設計経費	10,000
図書購入経費	55,000
高校生桂林市友好訪問団派遣経費	9,957
「市制百周年への対応」	
市制百周年関係経費	13,000
市史編さん	10,000
海洋水族館調査経費	3,000

広報・広聴

本市の広報、広聴は「ロマンに満ちた新しいふるさとづくり」のために5つの重点施策「ポリシー5」を積極的に進めています。

そこで、広報活動は、この「ポリシー5」を中心とした市政に対する理解と関心を高めるとともに、市政への市民参加を進めるために適時、適切な市政情報をいろんな広報媒体を通して提供しています。

広聴活動は、広く市民の声を聴き市政に反映させるため、市政懇談会や市政モニター制度の活用などを活発に展開しています。

市政だよりなどによる広報

月1回1日発行、全世帯配布、発行部数19万部
目の不自由な方には「点字市政だより」弱視者には「拡大版市政だより」を配布、「声の市政だより」を目が不自由で重度障害者の方へ送付
この他、「萌」「ヒューマンシティくまもと」を配布。

テレビ・ラジオによる広報

「市民のひろば手取本町1番1号」
RKK・TV、毎週土曜日午前9時25分～30分。
「こちら熊本市」
TKU・TV、毎月第4土曜日午前8時15分～30分。
「みどりの街から熊本市」
KKT・TV、毎週日曜日 午前11時45分～50分など。

市政懇談会

市政に対する意見や提言を聴き、市民意識を把握して、今後の市政運営に反映させる。

14回実施

市政モニター

モニター 148人 アンケート調査3回（地下水、ごみ、市電）

市民相談

行政サービスの向上を図るため、市民相談窓口では多くの要望、苦情などを迅速に対応し処理している。また、特別相談として、専門家による法律、税務、登記などの相談を行っている。

る法律、税務、登記などの相談を行っている。

市政相談年度別受付件数

昭和57年度	昭和58年度	昭和59年度	昭和60年度	昭和61年度
1,412件	1,634件	1,284件	1,261件	939件

特別相談利用状況（昭和61年度）

法律相談	サラ金（苦情）相談	登記相談	人権相談	その他
808件	804件	347件	265件	255件



市政番組の収録



施設めぐり



市政懇談会

昭和62年	世帯人口 1世帯当り2.9人	人口密度 1km²に3,268人	出生 1日につき19.7人	死亡 1日につき8.5人
結婚 1日につき9.9組	離婚 1日につき2.8組	転入 1日につき97.6人	転出 1日につき95.5人	酒 1人1日0.17リットル
乗用自動車(軽自動車を含む) 1世帯に0.9台	犯罪 1日に23.8件	交通事故 1日に13.0件	市職員 市民93.8人に1人	消防職員 市民1,055人に1人
火災 1日に0.55件	水道使用料 1日1人あたり251ℓ	ごみ処理 1日に596トン	市税 市民1人当り107,348円	市の予算 市民1人当り199,926円